

校庭の木々の芽も膨らみ、心地よい春の訪れを感じる季節となりました。校長先生をはじめ諸先生方、そして私たちを支えてくださったすべての方々に、卒業生を代表して感謝の言葉を申し上げます。

私たち355名は、今日、岡山理科大学附属高等学校を卒業します。無事、卒業を迎えることができたのは先生方や家族、そして仲間の支えがあったからです。今まで本当にありがとうございました。

3年前、私たちは真新しい制服に身を包み、身の引き締まる思いで入学式を迎えました。入学当初は何もかもが初めてで、不安でいっぱいでした。しかし、日が経つにつれて、新しい環境にも慣れ、充実した毎日を送るようになっていきました。私は、行事などの運営に携わり、学校生活に貢献したいと考え、生徒会執行部に入りました。生徒会の仕事は大変なこともたくさんあり、嫌になってしまうこともありました。しかし、今、振り返ってみると、社会で活躍していくための厳しさを学ぶことができ、生徒会執行部の一員として活動できてよかったです。

2年生では、後輩もでき、段々と学校の中心として活動する機会が多くなりました。文化祭では、飲食の出展ができるようになり、クラスで一丸となって取り組みました。

3年生では、自分の進路について真剣に考えるようになりました。受験勉強は想像していた以上に辛く、苦しいものでした。しかし、仲間の励ましや先生方の熱心な指導のおかげで、なんとか乗り越え、希望する進路を叶えることができました。

私たちがそれぞれの進路に向けて動き始めた頃、元号が「平成」から「令和」へと変わり、日本は新たな時代を迎えました。私たちはこれから、新たな時代の未知なる世界へ向けて、それぞれ歩んでいきます。

この3年間は、ここでは伝えきれないくらいたくさんの思い出でいっぱいです。友情を確かめ合い、絆を深めた修学旅行。会場の視線を一身に集める仲間を、一生懸命応援した体育祭。学年・科・コースの枠を超え、みんなで盛り上がった文化祭。勉強以外にも自分を磨き、たくさんの仲間ができた部活動。友達と他愛もない会話で盛り上がった休み時間。もちろん、楽しい思い出ばかりではありません。思うような結果が出せず、自分の力不足を突き付けられる苦しい日々が続いたこともありました。しかし、お互いに助け合い、励まし合って今日まで歩んでくることができました。そして、苦しかった日々でさえ、今は、大切な思い出になっています。これから先も、大切な宝物として、ずっと心に残っていることでしょう。

このような大切な思い出をつくることができたのは、いつも先生方が私たちのそばで寄り添ってくれていたからです。一緒に喜んでくださったり、時には厳しく叱ってくださったり、不安な時や自信がない時には、力強く背中を押してくださいました。なかでも担任の先生は、いつも近くで私たちをサポートしてくださいました。私は、受験勉強で悩んでいた時「変えられるのは自分と未来だけ」という担任の先生の言葉に前を向いて進んでいく勇気をもらいました。今日の私たちは、先生方の目にどう映っていますか。3年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

最後になりましたが、私たちを支えてくださった全ての方々に、改めて心より感謝いたします。また、まだまだ未熟な私たちです。卒業後も多くのご指導を頂きますよう、お願い申し上げます。

名残は尽きませんが、岡山理科大学附属高等学校のますますの発展を祈念してお別れの言葉とさせていただきます。

令和2年2月29日 卒業生代表 教育学科 最相 有未